

社のほか、地域によってプリティッシュ・コロンビア鉄道、ノーザン・アルバータ鉄道なども走っているが、全体的なシェアは小さい。また米ワシントン州シアトルとバンクーバー、ワシントンD・Cとモントリオール(ニューヨーク経由)、トロントとニューヨーク、トロントとシカゴの間は、米加旅客輸送列車アムトラックが走っている。

鉄道は、近年、道路および航空輸送に押されてきているが、道路網が整備されていない地域での天然資源の輸送にはまだ欠かせない。辺境から主要な貨物集積所あるいは港に鉱物資源を搬出している例として、ケベック・ノースショー・ラブラドル鉄道(鉄鉱石の輸送に活躍している)、ハドソン湾鉄道(ニッケル、銅、金などの鉱石輸送用)などが知られる。

鉄道による旅客輸送は第二次世界大戦前に最盛期に達し、その後は衰退をたどってきた。カナダ政府は一九七七年一月、



VIA列車の車内



鉄道旅客輸送を再興し、それを商業ベースで運営するため、公営企業VIA Rail Canada Inc.を創設した。VIAは列車の運行について鉄道会社と契約を交わし、必要な乗客輸送サービスを行う。かつてCNとCPが運行していた大陸横断および都市間の旅客輸送は、すべてVIAが引き継いだ。

ハイウェイも、輸送網の重要な一環で、延べ二十五万キロの舗装道路と六十三万キロの未舗装道路がカナダを縦横に走っている。一九六二年に、連邦政府が各州の協力を得て完成させた全天候カナダ横断ハイウェイ(トランス・カナダ・ハイウェイ)は、プリティッシュ・コロンビア州ビクトリアからニューファンドランド州セント・ジョンズまで、全長七千六百七十五キロにも及ぶ。このハイウェイ

ワイドボディで輸送能力が大きく、低燃費で安全性にすぐれ、最新の技術をとり入れた新世代の大型高性能ビジネス・ジェット——北米でも有数の大手航空機メーカー・カナデア社(本社モントリオール)が開発した新型機チャレンジャーが、前評判通り、好調な売れ行きを見せている。

最新ビジネス・ジェット チャレンジャー

1970年代後半に開発が始まったいわゆる第四世代のジェット機。高性能低燃費のエンジン、NASAが開発した最新の翼型、超強度・軽量の複合材などの使用、最新電子計算機による設計・製造、厳しい疲労試験や飛行テストで確かめられた高い安全性、低い騒音や排気レベル、広い機内——とあらゆる面で新しい技術や考え方が採り入れられている。



最大巡航速度時速八九〇キロ、最大航続距離七、一二二キロ、最大大ヘイロード一、七二〇キロ、機内高一・八五メートル(いずれもCL601型の場合)のチ

チャレンジャーは、現在、CL600型(ライカミングALF500二エンジン搭載)とCL601型(ゼネラル・エレクトリック製CF34型エンジン搭載)の二機種が開発中で、すでに二百二十機の確定オーダーを受注している。エグゼクティブ・ジェットのCL600型は、一九八〇年十一月に米連邦航空局(FAA)から型式証明が交付され、これまでに五十機以上が発注先に納入された。スタンダード・モデルを母体とするCL601型も来年初めにFAAの型式証明が交付される予定で、交付され次第ただちに納入が開始される。

チャレンジャーは、現存の多くの大型旅客機が一九六〇年代初頭に開発がスタートした。自動車の登録台数は、一九四五年に乗用車、バス、トラック合わせて百五十万台に達し、それ以降急速に伸びてきた。

都市交通

一九七七年には、登録台数千七百五十万台を数えている。

自動車は旅客輸送の面でも、貨物輸送